

やながわ

YANAGAWA 2011. No.157

10月1日

今号の内容 ページ

- ◆ルポ 皿垣小運動場の芝生化 2~3
- ◆柳川菊の節句・市民まつりのお知らせ 4~5
- ◆市民健康まつりのお知らせほか 6~7
- ◆各種委員会・協議会委員を募集 8~9
- ◆中学生キャリアウイークほか 10~11
- ◆市民のひろば(12-13) ◆川柳(13) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(14-15) ◆情報わいど(16-21) ◆がんばったね・ぬくもり(21-22) ◆もちのみデビュー(23) ◆保健ガイド(24-25) ◆新市史抄片(26)



みんなの協力で皿垣小に緑の運動場

今年度から地域と学校が一体となって進めた、皿垣小学校運動場の芝生化が完成し9月18日、地域の人たちへのお披露目を兼ねたスポーツレクリエーション大会が催されました。大会には校区の住民144人が参加。見事に生えそろった芝生の上で、グラウンドゴルフを楽しみました。参加者の中には、久しぶりに運動場を訪れたという人もいて、芝生の見事に目を見張る姿も見受けられました。

新 市史抄片

柳川の風流

79

■ 問い合わせ
 市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

柳川市では、旧柳川市に2か所(古賀・上宮永)、旧大和町に4か所(鷹尾・皿垣・北徳益・野田)、旧三橋町に2か所(今古賀・藤吉)の8か所で「風流」と呼ばれる民俗芸能が伝承されています。風流は古くは「ふりゆう」といいましたが、中世以降「ふりゆう」と呼ばれるようになりました。



〔右〕今古賀風流(三橋町)小学生男子3人が太鼓打ち役を担当する。〔下〕北徳益風流(大和町)ドンキャンキャンの一行が家々を廻り、家の前で舞を奉納する。

平安時代、風流という言葉は、趣向をこらした風情ある作り物を意味していました。それが次第に人々が仮装して歩く練り物までも指すようになっていきました。



この風流の特徴は昼の祭りとして深く結びついている点にあります。華やかで、人目をひくしつらえを多くの観客に見てもらうには昼間が最もふさわしいからです。

また、風流は「御霊信仰」の影響を強く受けています。恨みを残し、非業の死を遂げた霊がこの世の人々に祟りをもたらすという考えがあり、その霊を慰め、そうすることによってその力を現世の利益になるよう仕向けるための祭りが生まれました。その一つが念仏踊りです。宗教色の濃いものを踊り念仏、娯楽性の強いものを念仏踊りといえます。踊り念仏は近世に入ってから急速に念仏踊り化していきます。念仏踊りに変化

していきま
 す。その一
 つが柳川の
 風流です。
 柳川の風
 流の特徴に
 ついては、
 平成17年4
 月号に詳し
 く紹介され
 ていますの
 で、ここで

はそれ以外のことについて触れることにします。

まず、素面の子供たちが交代しながら打っていく形式の太鼓踊りという点です。素面で踊りながら叩いていくのは西日本に多くみられるものです。踊り方は佐賀の「浮立」と共通する要素もありますが、面を被ることはありません。

また、太鼓の上に女性の着物(花嫁衣装など)を飾り立て、打手も頭にシャグマを被り、女性の着物をまとったりします。前述のように仮装するのも風流の特徴です。

それから、太鼓打ち周囲に鬼が出てさまざまな仕草をする地区もあります。鬼や道化役をとまなう例は九州の「学」と呼ばれる太鼓踊りとも共通します。

最後に、注目すべき伝承として、堤防工事の無事完成を願って人柱となった人に感謝し、その霊を慰めるために踊り始めたといえる地区があることです。この伝承は柳川の風流が死者を供養するための供養念仏の流れを汲むものであることを如実に示しています。

市史編集委員 安田宗生

平成23年8月末現在

人のうごき

- 人口 71,748人 (前月比-65)
- 男 33,982人 (-41)
- 女 37,766人 (-24)
- 出生 41人、死亡 83人
- 転入 115人、転出 138人
- 世帯数 24,569世帯 (+8)

編集後記

●家族も寝静まった深夜、リビングでくつろいでいると、背後に何者かの気配が。恐る恐る振り返ると、そこには巨大なクモ！クモは嫌いだはないが、手のひらぐらい大きくなると、さすがに気色悪い。ハエ叩きで追い廻し屋外追放に成功。とんだ深夜の決闘に、酔いも吹き飛んだ。

●なでしこジャパンが女子ワールドカップで優勝したことで、今サッカーが熱い。男子も海外のクラブで活躍する選手や才能ある若い選手も多いので、ワールドカップやロンドン五輪にいやがおうにも期待が高まる。まずは予選を突破しなければならぬが、今から覆不足が心配だ。(賢治)

●9月から友人の結婚式ラッシュが始まった。11月までに5回の結婚式。特に10月は3回と集中していて、よく日程がかぶらなかつたなあと感心する。結婚式と呼ばれるのは、とてもありがたいことだが、ご祝儀のことを考えると、しばらくは友人のために働く日々が続きそうだ。(和久)